

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2008～2011
 課題番号：19791742
 研究課題名(和文)精神科 new long stay 患者を対象とする退院支援プログラムの開発
 研究課題名(英文)Development of the discharge nursing program for new long stay patients in psychiatric hospital
 研究代表者
 石川 かわり (ISHIKAWA KAORI)
 公立大学法人 岐阜県立看護大学・看護学部・准教授
 研究者番号：50282463

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：看護学、精神看護学、退院支援、ニューロングステイ

1. 研究計画の概要

本研究では、new long stay といわれる精神科医療施設への入院期間が 1～5 年の患者を対象として、患者の強みや力量に焦点を当て、それを生かす退院支援看護プログラムの開発を目指している。

- (1)平成 19 年度は、退院支援の課題とニーズを明らかにすることを目的として、入院期間 1～5 年の患者を対象に聞き取りを実施する。
- (2)平成 20 年度は、退院支援の状況について患者の視点から明らかにすることを目的として、(1)の成果を基にしたアンケート調査を実施する。
- (3)平成 21 年度は、看護専門職の視点から new long stay 患者の退院支援の現状と課題を明らかにすることを目的として聞き取り調査を実施する。
- (4)(1)～(3)の研究成果について、患者、看護師双方の視点から退院支援についての検討を重ね、入院期間 1～5 年の患者を対象とした退院支援看護プログラムを作成し、精練する。

2. 研究の進捗状況

- (1)平成 19 年度の入院期間 1～5 年の患者を対象とした聞き取り調査では、以下のことが明らかとなった。対象者は「退院を希望」していたが「退院希望時期は曖昧」であり「退院予定日は未確定」であった。「退院に向けた準備」をすすめていたが、「時間軸に乗った支援」より「患者のベ

ース・状況優先の支援」が中心であった。本人が希望/予定している退院先は、アパート/自宅での一人暮らし、グループホーム/福祉ホーム入居で「自立生活が求められている現状」があり「医療者への要望の希薄さ」が抽出された。

- (2)平成 20 年度の入院期間 1～5 年の患者を対象としたアンケート調査(有効回答は 103 部)では、以下のことが明らかになった。8 割以上が退院を考慮・希望し、7 割弱が条件が整えば退院できるとしていた。また、退院時期が未確定/不明が 8 割、退院先が未確定/不明は 5 割を占めた。退院後の心配の上位は、対人関係 45%、金銭管理 41%であった。適切な支援が行われている、自分の意向や希望が尊重されていると答えた者は 3 割前後で、実際の支援の上位は、家族調整 40%、退院に向けた話し合い 39%、今後希望する支援の上位も退院に向けた話し合い 55%、家族調整 50%であった。
- (3)平成 21 年度の看護師を対象とした聞き取り調査では、以下のことが明らかとなった。退院支援は「看護問題の捉え易さ - 難さ」「患者の希望の分かり易さ - 難さ」「患者の変化の見え易さ - 難さ」といった『退院支援における看護の明示性』と、「患者との関わり易さ - 難さ」「家族とのつながり易さ - 難さ」「他職種との連携のとり易さ - 難さ」といった『看護における他者との相互連絡性』に影響を受けていた。また、「医師の硬直化」「家族の硬

直化」「看護師の硬直化」が「患者の硬直化」へと連鎖し、『退院支援が進まない現状の硬直化』を促進していた。一方、実施されている退院支援は硬直した状況を「柔軟化する志向性」を伴っていた。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

これまでのところ、ほぼ計画通りに進めることができている。しかし、研究成果の公表においては、随時学会発表は行っているが、論文掲載には至っていないため、と評価した。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 平成 19 年度(患者を対象とした聞き取り調査)、平成 20 年度(患者を対象としたアンケート調査)、平成 21 年度(看護師を対象とした聞き取り調査)の 3 カ年の研究成果を統合して検討する
- (2) (1)を基に当事者の視点を踏まえた退院支援看護プログラムの試案を作成する
- (3) (2)について看護師および患者双方から検討を重ね、プログラムを精練する

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 4 件)

- (1) 石川かおり, 岩崎弥生, 小宮浩美, 東本裕美, 葛谷玲子: 精神科長期入院患者の退院支援の状況 - 入院期間 1 ~ 5 年未満の患者を対象としたアンケート調査 - . 日本看護科学学会第 29 回学術集会, 2009 年 11 月 27-28 日, 千葉
- (2) Ishikawa K., Iwasaki Y., Higashimoto H., Komiya H., Kuzuya R.: The Recuperation Life of "New-Long-Stay" Patients with Mental illness towards Their Transfer to Community Life: from the Patient s points of view, 2009 Shanghai International Conference & Exhibition on Nursing Technology & Products, 2009 年 11 月 17-20 日, 中国・上海
- (3) 石川かおり, 岩崎弥生, 東本裕美, 小宮浩美, 山田洋: 精神科入院期間 1 ~ 5 年未満の患者の退院に向けた療養生活 - 聞き取り調査の分析 - . 日本精神衛生学会第 24 回大会, 2008 年 11 月 8-9 日, 大分
- (4) Ishikawa K., Iwasaki Y., Komiya H., Higashimoto H.: Community-based nursing care for people with schizophrenia:

qualitative analysis of nursing practices during a transition from hospital to community life. 14th Qualitative Health Research Conference, 2008 年 10 月 3-6 日, カナダ・バンフ

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

- (1) 石川かおり, 岩崎弥生, 東本裕美, 小宮浩美, 山田洋: 精神科入院期間 1 ~ 5 年未満の患者の退院に向けた療養生活 - 聞き取り調査の分析 - . 日本精神衛生学会誌こころの健康, 24 (1), 77, 2009